

# 民社協会平成16年度総会開催

## — 第20回参議院選挙勝利に向けて全力 —



盛大に開催された平成16年度総会

### 参議院選挙勝利に向けて

民社協会は平成16年度総会を3月13日、東京の全国町村会館で開催した。総会には各地方協会代表、労働組合関係者、協会本部役員など約100名が参加し、熱心な討議の結果、平成16年度活動方針等を決定した。

総会は今泉昭副理事長の開会挨拶で始まり、この1年間の物故者の過去の功績を称えるとともに、ご冥福を祈り1分間の黙祷を捧げた。

続いて議長に三好義治氏（大阪府）、山本光栄氏（石川県）の両氏を選出し、議事に入った。

冒頭、米澤隆会長は昨年統一地方選挙、衆議院選挙を振り返り、次のように挨拶を行った。

「民社協会に所属する議員が今後の日本の政界の中核を占めていくために、前を向いて何をしなければならないか、を議論していこう。われわれがまとまり、真剣な議論の中から、21世紀の日本を導く改革の理念を再構築し、政策を打ち出していくことが重要だ」

来賓として、堀江湛氏（政策研究フォーラム理事長）と橋爪利昭氏（友愛連絡会代表幹事）、中野寛成衆議院副議長から祝辞をいただいた。

堀江理事長は「参議院選挙で勝利して、次の衆議院選挙に向けて民主党を正しい方向に転換させてほしい。憲法改正や安全保障の問題でもいたずらに遠慮することは

ない」と激励の挨拶を述べた。

また、橋爪代表幹事は「旧民社の精神をもっと民主党のなかで活かしてほしい。友愛連絡会としても今夏の参議院選挙勝利に向けて全力を尽くす」と連帯の言葉を述べた。

中野寛成副議長は「副議長就任は長年活動をともにしてきた皆さんのお蔭です。しっかりした新しい政権交代の受け皿をつくりあげてほしい」と感謝の気持ちを込めた挨拶を行った。

続いて、玉置一弥理事長が国会報告、田中慶秋専務理事が平成15年度活動報告を行った。全国の組織状況、統一地方選挙、衆議院選挙の取り組み、友好団体との連携、定期刊行物の刊行、地方議員研修会の開催、役員会など各種会議の開催、政研21の勉強会開催、新理念研究の取り組み状況などについて、報告があった。会計監査報告を増田光儀監事が行った。

引き続き提案事項に移り、田中専務理事が平成16年度活動方針案、予算案の説明を行い、質疑応答後、両案とも原案通り可決承認された。

報告、提案事項終了後、参議院選挙必勝決議案が平田健二選対委員長より提案され、満場一致で採択された。

役員選出は衆議院副議長に就任した中野寛成理事長の後任として、玉置一弥理事長代行の理事長就任を承認した。一部の理事、監事の新任、退任を承認し、総会を終了した。

### 新社会形成とその理念

#### — 谷藤教授の記念講演も —

休憩をはさみ、谷藤悦史早稲田大学教授（政研フォーラム常務理事）が「新社会形成とその理念—社民主義の再挑戦に向けて—」と題した記念講演を行い、「日本型官僚主導の政治、垂流新自由主義から脱皮して、人々の協同、公と民の協働で新しい福祉社会を形成していくことが求められている。大きな政府はいらない。社会の問題を社会で解決するような仕組みづくりが重要になってくる」と述べた。

第2部の懇親会は富田健治副理事長の司会で始まり、西村章三顧問（元衆議院議員）の挨拶、柳沢錬造顧問（元参議院議員）による乾杯の音頭と進み、和やかなうちに旧交を温めた。

今夏の参議院選挙に向け、協会内の意思を統一し連帯を深める意義深い総会と懇親会を無事終了した。